



JAZZ MASTERS COLLECTION 1200



10枚買って、もれなくプレゼント!

ルースト 5th アニヴァーサリー・アルバム (世界初CD化) ROOST 5TH ANNIVERSARY ALBUM

1949年に設立されたルースト・レーベルの、設立5周年を記念して制作された
サンプラー。リリースは1955年。おなじみの名演からレア音源まで12曲を収録。

【対象商品】

JAZZ MASTERS コレクション1200 第1弾50タイトル 及び

第2弾50タイトル の計100タイトル (品番: WPCR-29001~29100)

【応募方法】

対象商品貼付のステッカーにある応募券10枚を切り取り郵便ハガキに貼付して

①郵便番号 ②ご住所 ③ご氏名 ④ご年齢 ⑤お電話番号 ⑥ご購入店 ⑦ご意見・ご要望

を明記し、ご応募ください。

【応募宛先】

〒107-8639

東京都港区北青山1-2-3 青山ビル3F

(株)ワーナーミュージック・ジャパン

「JAZZ 1200 キャンペーン事務局」宛

【応募締切】

2016年8月31日(水) (当日消印有効)



【ご注意】

- 賞品の発送は2016年9月末日頃を予定しています。
- 応募券は10枚を1口と致します。
- ご応募の際、ハガキから応募券が剥がれ落ちないように貼付をお願い致します。
- ご記入いただいた個人情報は賞品発送及び個人を特定しない統計のための資料として使用させていただきます。
- 上記の利用目的を達した個人情報は弊社が責任をもって再生不能な形式で速やかに破棄させていただきます。

ROOST 5TH ANNIVERSARY ALBUM

【収録曲】

①【キューバップ・シティ】 マチート feat.ブルー・ムーン
マリオ・パウザ、フランク・パキート・デイヴィス、ボブ・ウッド
ドレン、ハワード・マギー(tp)、ジーン・ジョンソン、フレッド
スケリット(as)、ブルー・ムーン、ホセ・マデラ・シニア
(ts)、レスリー・ヨナキンス(bs)、リネ・ヘルナンデス(p)、
ボビー・ロドリゲス(b)、マチート(maracas)、ホセ・マンガ
ル(bgo)、ルイス・ミランダ、アルマンド・ベラザ(cga)、ウ
バルド・ニエト(timb)
【録音】1948年11月 ニューヨーク

②【ヴァーモントの月】 ジョニー・スミス
feat.スタン・ゲッツ
スタン・ゲッツ(ts)、サンフォード・ゴールド(p)、ジョニー・
スミス(g)、エディ・サフランスキー(b)、ドン・ラモンド(ds)
【録音】1952年3月11日 ニューヨーク

③【サムパティ・ラヴ・ミー】 パド・パウエル
パド・パウエル(p)、カーリー・ラッセル(b)、マックス・ロー
チ(ds)
【録音】1947年1月10日 ニューヨーク

④【ジーズ・フォーリッシュ・シングス】 スタン・ゲッツ
スタン・ゲッツ(ts)、デューク・ジョーダン(p)、ジミー・レイ
ニー(g)、ビル・クロウ(b)、フランク・インゾラ(ds)
【録音】1952年12月19日 ニューヨーク

⑤【キュー・ブルー】 ビリー・テイラー
ビリー・テイラー(p)、マンデル・ロウ(g)、アール・メイ(b)、
ジョー・ジョンソン(ds)、ズート・シムス(maracas)、フ
ランク・コロソ(cga)
【録音】1951年11月1日 ニューヨーク

⑥【パレード・フォー・ルースト(ジーズ・フォーリッシュ・シングス)】
リー・コニック
リー・コニック(as)、アンリ・ルノー(p)、ドン・パグリー(b)、
スタン・リーヴィー(ds)
【録音】1953年9月17日 パリ

⑦【タップス・ミラー】 ジョー・ジョー・オールド
フランク・ロソルノ(tb)、ジョー・ジョー・オールド(ts)、ルーレ
ヴィー(p)、マックス・ベネチ(b)、タイニー・カーン
(ds,arr)
【録音】1951年1月24日 ニューヨーク

⑧【スウィート・アンド・ラヴリー】 ソニー・ステット
ソニー・ステット(as)、ドン・エリオット(mellophone)、
カイ・ウィンディング(tb)、シッド・クーパー(ts, pic)、
ジョー・バーク(bs)、ホレス・シルヴァー(p)、チャール
ス・ミンガス(b)、ドン・ラモンド(ds)、ジョニー・リチャーズ
(arr, dir)
【録音】1953年3月18日 ニューヨーク

⑨【スリーピー・バップ】 カイ・ウィンディング
カイ・ウィンディング(tb)、ブルー・ムーン(as)、ジェリー・マ
リガン(bs)、ジョー・ジョー・オールド(p)、カーリー・ラッセル
(b)、マックス・ローチ(ds)
【録音】1949年4月10日 ニューヨーク

⑩【魅惑されて】 エディ・ロック・ジョウ・デイヴィス
エディ・ロック・ジョウ・デイヴィス(ts)、ビル・ドグット(org)、オ
スカー・ベティフォード(b)、シャドウ・ウィルソン(ds)
【録音】1952年 ニューヨーク

⑪【枯葉】 エディ・ボネメア
エディ・ボネメア(p)、
不明(b)、不明(perc)
【録音】不明

⑫【言い出しかねて】
ティージー・ガレスピー
ティージー・ガレスピー(tp)、ピ
ル・グラハム(bs)、ウエド・レ
スキー(p)、ルー・ハックニー
(b)、アル・ジョンズ(ds)
【録音】1953年2月9日
パリ【サル・プレイエル】で
のライブ

⑬【オリジナル英文解説付】
RPL1201
〈写真はイメージです〉

オリジナル英文解説付



キャンペーンの詳細については右記サイトをご覧ください。 <http://wmg.jp/jazz1200/cmp/>

SHM-CD (Super High Material CD) とは... 通常のCDとは別種の液晶パネル用ポリカーボネート樹脂を使用することにより、素材の透明性をアップ、マスター・オリティに限りなく近づいた高音質CDです。詳しくは → shm-cd.jp

JAZZ MASTERS COLLECTION 1200

名門アトランティック、ワーナー・ブラザース・レーベル等に、新たに加わったルーレット、ルースト、ジュビリー、コルピックス等の名盤、初CD化のレア盤をSHM-CD仕様、特別価格でリリースする新シリーズ登場。

第1弾 全50タイトル: 2016年6月29日発売

第2弾 全50タイトル: 2016年7月27日発売

24bit デジタルリマスタリング 完全限定盤 / SHM-CD仕様



特別価格 各¥1,200+税



ジャズ・マスターズ・コレクション1200 特集サイト <http://wmg.jp/special/jazz1200/>



レスター・ヤングの流れを汲む、通人好みの白人テナー奏者が当時話題を集めていたエディ・コスタのトリオと共演したアン・ホーン・カルテットの秀作。選曲もスタンダード中心、リラックスした雰囲気が秀逸。

WPCR-29015	[JUBILEE]
マイク・コゾー&エディ・コスタ=ヴィニー・パーク・トリオ	
	
<ol style="list-style-type: none">12345678	
<p>マイクコゾー (ts)、エディコスタ (p)、ヴィニーパーク (b)、ニックスタビュラス (ds)</p> <p>【録音】1956年9月　ニューヨーク</p>	

わずかに2枚のアルバムを残しただけで音楽の世界を退いてしまった白人テナーのマイク・コゾー。しかし彼がなかなかの実力の持ち主で、スタン・ゲッツやズート・シムズに通じるスムーズな歌心とリズムへのスマートな乗りをもっていったことは、本作を耳にすればよくわかることだろう。リズム・セクションをエディ・コスタのトリオが受け持っているのが、もうひとつの魅力。いかにもマニア好みのコレクターズ・アイテムになっている。

トリストアーノ門下の2大サクソス奏者が共演したモダン・ジャズの秀作。リラックスした雰囲気の下で、絡み合うクールなソロが絶品。

WPCR-29017	[ATLANTIC]
リー・コニッツ・ウィズ・ウォーン・マーシュ	
	
<ol style="list-style-type: none">12345678	
<p>リーコニッツ (as)、ウォーンマーシュ (ts)、サル・マスコ (p)、ロニーボール (b)、レジー・バヴァー (g)、オスカー・ベティフォード (b)、ケニングクラーク (ds)</p> <p>【録音】1955年6月14日、15日　ニューヨーク</p>	

メロディックなアドリブ・ラインの中に、あふらんばかりの個性が感じられるリー・コニッツとウォーン・マーシュの共演。リー・コニッツの下部に個性を築きあげた彼らの演奏は、優雅な抒情を漂わけて、聴く人の心を惹きつけつづやまないものがある。マイナーキーの(トプシー)のほのかな情感。パーカー作(ドナ・リー)の個性的な即興プレイ。そしてバード(言いだしかねて)などでの透明感あふれる響きが心にしみわたる。

ハード・バップの一般的な形式を越えた、個性的で革新的なサウンド、黒人としての意識の高揚と怒りが、最高の芸術表現となって示された歴史的名盤。

WPCR-29019	[ATLANTIC]
チャールス・ミンガス『直立猿人』	
	
<ol style="list-style-type: none">1234	
<p>チャールス・ミンガス (b)、ジャッキー・マクリン (as)、J.R.モンテローズ (ts)、マルコム・ワグネル (p)、ウォーレン・ジョーンズ (ds)</p> <p>【録音】1956年1月30日　ニューヨーク</p>	

“ジャズ・ワークショップ”を設立して、黒人としてのパワーとエネルギーを見込みに音楽を創造していったチャールス・ミンガス。そんなミンガスの反骨精神が注ぎ込まれた音楽美へと昇華されているタイトル曲(直立猿人)。トーン・ボエムと呼ぶべき(霧深き日)や、やはりミンガス奥に染りこられた(ラヴ・チャント)など、怒れるベースト・チャールス・ミンガスの真価が発揮された、ジャズ史上屈指の傑作アルバムである。

ジャズ・ベースの巨人が、西海岸の人気ピアニスト、ハンプトン・ホーズをフィーチャーして吹き飛ばしたピアノ・トリオ異色の名盤。

WPCR-29021	[JUBILEE]
チャールス・ミンガス『ミンガス・トリオ』	
	
<ol style="list-style-type: none">1234567	
<p>チャールスミンガス (b)、ハンプトン・ホーズ (p)、ダニー・リッチモンド (ds)</p> <p>【録音】1957年7月9日　ニューヨーク</p>	

ピアニストにハンプトン・ホーズを迎えた、ミンガスのトリオである吹き込み。ミンガスはコンボや、その拡大版ともいえるビッグ編成でプレイすることが多く、ベース、ピアノ、ドラムスというトリオ録音は、逆にとても珍しい。レパードキーズもスタンダード曲とブルースが中心、それだけに録音のないセッションというところもできるが、そんな中でミンガスが強烈な体臭を発散させながら個性を振りまいてゆくのが、大きな聴きものになっている。

50年代西海岸を代表する白人アルト奏者が、ビ・バップの伝統を継承する黒人の実力者たちと組んだハード・バップ色の強い秀作。パド・パウエル の「ザ・フルート」や自作曲での一丸となったプレイがスリリングだ。

WPCR-29016	[JUBILEE]
ハーブ・ゲラー『ファイア・イン・ザ・ウェスト』	
	
<ol style="list-style-type: none">1234567	
<p>ハーブゲラー (as)、ケニー・ドーム (tp)、ロランドランド (ts)、ルー・レイ (p)、レイ・ブラウツ (b)、ロレンス・マツパル (ds)</p> <p>【録音】1957年3月14日　ロサンゼルス</p>	

50年代の西海岸ジャズを代表するアルト・サクソ奏者のひとりだったハーブ・ゲラー。ここではウェストの名手たちに加えて、たまたま西海岸にツアーで来ていたケニー・ドームとレイ・ブラウンが参加。彼らが増加することによって、心地よいハード・バップ的なグルーブが生み出されているのが嬉しい。 (ス・バシフィック・ヴュー) ははじめとする4曲がゲラーのオリジナル。タイトルどおり熱い好演が繰り返り聞かれている。

フリー・ジャズはここから始まった。ジャズ史上、最重要作品のひとつと称賛された革命児の初期名盤。

WPCR-29018	[ATLANTIC]
オーネット・コールマン『ジャズ来るべきもの』	
	
<ol style="list-style-type: none">12345678	
<p>オーネット・コールマン (as)、ドン・チェリー (cor)、チャリー・ヘデン (b)、ビリー・キーンズ (ds)</p> <p>【録音】1959年5月22日　ハリウッド</p>	

これぞジャズ史上最大の題作! 本アルバムを引っさげてニューヨークのジャズ・シーンに鮮烈なデビューを飾ったオーネットの音楽は賛否両論、ジャズ界にセンセーショナルな論議を巻き起こした。アブストラクたな均衡を保つ(ロンリー・ウーマン)、神秘的でさえある(ピース)、バップを自由に解釈した(イヴェンチュアリー)。彼らの演奏ももっていた衝撃的な鮮度は、半世紀以上を経た今日に耳にも少しも衰えていない。

ジャズ・ベースの巨人が、ピアノと歌に専念した異色の名盤。強烈なオリジナル曲を並べ、ローランド・カークとブッカー・アーワンの2サクソスも冴えわたる。

WPCR-29020	[ATLANTIC]
チャールス・ミンガス『オー・ヤー』	
	
<ol style="list-style-type: none">1234567	
<p>チャールス・ミンガス (p. vo. arr)、ローランド・カーク (fl. siren. ts. manzello. stritch)、ブッカー・アーウィン (ts)、ジミー・ネッパー (tb)、ダグ・トキンス (b)、ダニー・リッチモンド (ds)</p> <p>【録音】1961年11月6日　ニューヨーク</p>	

強烈な個性をもつリーダー、チャールス・ミンガスがベースではなく、全編にわたってピアノを弾いている異色の1枚。アルバムを買くどるどころだとサウンドは、アークの強いミンガス・ミュージックの神髄を示して余りあるもの。ミンガスの精密なピアノ・ソロをはじめ、フロントを飾る2人のサクソ奏者、ローランド・カークとブッカー・アーウィンも大暴れ。ミンガスのヴォーカルもフィーチャーされて、コクのあるミンガス・ミュージックが堪能できる。

ラテン・パーカッションをフィーチャーし、アフロ・キューバン・ジャズとハード・バップの融合を試みたジャズ・メッセンジャーズの異色作。ハードマン、グリフィンのエキサイティングなプレイも見逃せない。

WPCR-29022	[JUBILEE]
アート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズ『キュー・バップ』	
	
<ol style="list-style-type: none">1234	
<p>アート・ブレイキー (ds)、ビル・ハードマン (tp)、ジョニー・グリフィン (ts)、サム・ドクター (p)、モート・ハーバート (b)、ダニー・バルセロナ (ds)</p> <p>【録音】1957年5月13日　ニューヨーク</p>	

ハード・バップとアフロ・キューバン・リズムがミックスされた“キュー・バップ”。ジャズ・メッセンジャーズにコンガ奏者のサブー・マルチネスが加わり、いっそうリズムでパーカシヴなサウンドを楽しむことができる。ブレイキー作(スキヤキ)は、あふらんばかりのラテンの情熱と哀感が交錯する魅力的なナンバ。ホットジャズ・ジョニー・グリフィンの吹奏も圧巻。ブレイキーの原点回帰も感じられる一作になっている。

60年代前半の3管編成セクステットに、重厚なアンサンブルを加えた人気ミュージカル集。強烈なジャケッとも魅力の、ハード・バップ愛好家のコレクターズ・アイテム。

WPCR-29023	[COLPIX]
アート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズ『ゴールデン・ボーイ』	
	
<ol style="list-style-type: none">123456	
<p>アート・ブレイキー (ds)、リー・モーガン、フレディ・ハバード (tp)、カーティス・フラー (tr. arr)、ジューリアス・ワキンス (frn)、ビル・バババ (tu)、ジューム・ス・スポルディング (as)、ウイン・ショーター (ts. arr)、チャールズ・ステイwis (bs)、シター・ウォルトン (p. arr)、レジー・ワークマン (b)</p> <p>【録音】1964年5~6月　ニューヨーク</p>	

黒人ボクサーを主人公にしたブロードウェイのヒップ・ミュージカル「ゴールデン・ボーイ」の音楽をジャズ・メッセンジャーズの3管メッセンジャーズに5本のホーンが追加されて、さらに重厚なアンサンブル・ハーモニーを耳にすることができる。(イエ・アイ・キャン)でのウエイン・ショーターのソロは圧巻。メッセンジャーズのアルバムの中でも、とびきりのダイナミックな迫力をもった一枚になっている。

白人ギターの最高峰がヴァイブを含むビアレス編成で挑んだ50年代中期の隠れた秀作。スタンダードやモダン・ジャズの名曲、ブルースを取り上げ、滋味溢れる演奏がじっくり楽しめる。

WPCR-29025	[ROOST]
ニュー・ジョニー・スミス・カルテット	
	
<ol style="list-style-type: none">12345678910	
<p>ジョニー・スミス (g)、ジョーレイ (vib. bgo2)、ジョージルーマニ (b)、ジョニー・レイ (ds)</p> <p>【録音】1956年10月24日　ニューヨーク</p>	

人気ギタリストとしての評価を得ていたジョニー・スミスのカルテットによる56年の作品。ヴァイブのジョニー・レイを迎えた編成で、クールなアンサンブル・サウンドが楽しめる。ム・ディでモダンティックな演奏だけでなく、アップ・テンポの(ス・ワンドافل)や(ボン・チケット)などは、チャーリー・クリスチャンばりの鮮やかなテクニクが聴かれる。ジョニー・スミスの実力をよく知ることでできる一作である。

カウント・ベイシー楽団で人気を博したトランペッターとモダン・テナーの最高峰が共演したブルーメンの隠れた人気盤。

WPCR-29027	[ROULETTE]
ジョー・ニューマン&ズート・シムズ『ロッキング・ホーンズ』	
	
<ol style="list-style-type: none">12345678910	
<p>ジョー・ニューマン (tp)、ズート・シムズ (ts)、ジョニー・エイサン (p)、オスカー・ベティフォード (b)、オー・ジョーンズ (ds)</p> <p>【録音】1957年4月10日　ニューヨーク</p>	

切れ味のあるフレージングをもったブルーメンの重鎮トランペッター、ジョー・ニューマンと、レスター・派モダン・テナーのズート・シムズ。ふたりの共演は57年の本セッションが初めてというが、さすが名人どうしだけあって、びたりと息の合ったスウィング・ぶりを発揮してみせる。ほとんどの作品がメンバーのオリジナルで書かれているアルバム。ベースの巨人オスカー・ベティフォード以下のサポートも素晴らしい。

ジャズ史上に燦然と輝く2大巨匠の歴史的邂逅を捉えたコク編成によるスタジオ録音の第2弾。

WPCR-29029	[ROULETTE]
ルイ・アームストロング&デューク・エリントン『グレート・リユニオン』	
	
<ol style="list-style-type: none">1234567	
<p>ルイ・アームストロング (tp. vo.)、デューク・エリントン (p)、ト Ramsey (tb)、パーニー・ベガー (cl)、モート・ハーバート (b)、ダニー・バルセロナ (ds)</p> <p>【録音】①②:1961年4月3日　ニューヨーク ③:1961年4月4日　ニューヨーク</p>	

「トゥギャザー・フォー・ザ・ファースト・タイム」と同じ輝く吹き込みが収められていて、2枚のアルバムを併せてルイとデュークの邂逅セッションの全容を知ることができる。こちらもエリントンの名曲ばかり。ルイのトランペット・ソロからヴォーカル、スキヤットと自在な展開を聴かせる(スイング・リレイ)や意味がない(ム)をはじめ、音楽の喜びにあふれている7曲。ルイが初見でプレイしたという(アゼリア)の解釈も素晴らしい。

優雅なプレイで評価の高い白人ギタリスト、ジョニー・スミスが3人の名テナー奏者、スタン・ゲッツ、ズート・シムズ、ポール・クイニェットを迎えて録音した出世作。(1952~3年録音)

WPCR-29024	[ROOST]
ジョニー・スミス『ヴァーモントの月』	
	
<ol style="list-style-type: none">123456789101112131415	
<p>ジョニー・スミス(g)、スタン・ゲッツ(ts)、ズート・シムズ(ts)、ポール・クイニェット(tb)、サンフォード・ゴードン(fl)、エディ・サラフアン(b)、ボブ・カター(b)、アール・ド・フィッシュン(b)、ドン・ラモンド(ds)、モリフ・エルド(ds)</p> <p>【録音】①④⑤:1952年3月11日　ニューヨーク ③⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</p> <p>★リリカルLP未収録曲</p>	

スマートで粋なセンスを発揮して一世を風靡したギタリスト、ジョニー・スミスの名を世に知らしめることになった(ヴァーモントの月)を含む名曲・名曲の数々。タイトル曲のスタン・ゲッツをはじめ、ズート・シムズ、ポール・クイニェットという3人のテナー奏者が曲によって参加する。クール・ジャズが絶頂期を迎えている時代。ソフィスティケートされたサウンドの輝きを、どのトラックからも聴きとることができる。

リリカルで美しい奏法で知られた伝説のトランペッターの代表作。フィル・サンテルが楽曲を提供、幻のテナー奏者アレク・イーガーの参加も話題を集めた元祖コレクターズ・アイテム。

WPCR-29026	[ATLANTIC]
トニー・フラッセラ『トランペットの詩人』	
	
<ol style="list-style-type: none">12345678910	
<p>トニー・フラッセラ (tp)、アレン・イガー (ts)、ダニー・バグ (bs2⑤⑥)、ジャウンス・ウェルチ (tb2⑤⑥)、ビル・クリリア (p)、ビル・アルソニー (b)、チャニア・ブラッドリー (ds)、フィル・ヤングル (arr)</p> <p>【録音】①②⑤:1955年3月29日　ニューヨーク ③④⑥⑦⑧⑨⑩:1955年4月1日　ニューヨーク</p>	

ジェリー・マリガンとの共演でも知られるトニー・フラッセラは、チェット・ベイカーなどにも相通じるリリカルな個性の持ち主。そんな“トランペットの詩人”フラッセラがこのた。正式には唯一としてよりリーダー・アルバムが、このアトラティック盤である。テナー・サクソに、やはり白人の名手だったアレク・イーガーが参加しているのも貴重。忘れ去られてしまった名手の真の実力が伝わってくる、充実の1枚になっている。

サッチモとエリントン。ジャズの歴史に燦然と輝く巨匠2人がスタジオで邂逅。不滅のエリントン・ナンバーを演奏するサッチモの姿も感動的だ。

WPCR-29028	[ROULETTE]
ルイ・アームストロング&デューク・エリントン『トゥギャザー・フォー・ザ・ファースト・タイム』	
	
<ol style="list-style-type: none">12345678910	
<p>ルイ・アームストロング (tp. vo.)、デューク・エリントン (p)、ト Ramsey (tb)、パーニー・ベガー (cl)、モート・ハーバート (b)、ダニー・バルセロナ (ds)</p> <p>【録音】1961年4月3日、4日　ニューヨーク</p>	

ルイ・アームストロングとデューク・エリントン。ジャズ・スタイルの創造者でもある偉大なふたりのミュージシャンによって残された、唯一の共演アルバムである。演奏される曲目が、デューク・エリントンのナンバーばかりというのも面白いが、それだけでなくルイがこれらの作品を見事に彼のスタイルで書かれてゆくのにも感服させる。まさにジャズの何であるかを知りつくした者どうしの、スタイルを超えた共演となっている。

タイトなアンサンブルとエモーショナルなプレイで、ファーガソン・オーケストラの持ち味を存分に発揮したビッグ・バンド・ジャズの傑作。

WPCR-29030	[ROULETTE]
メイナード・ファーガソン『ア・メッセージ・フロム・ニューボート』	
	
<ol style="list-style-type: none">12345678910	
<p>メイナード・ファーガソン (tp. v-tp)、ビル・チャイス、クライド・リーンガン、トム・スレイ・エム (tp)、スライド・ハンプトン (tb. arr)、ドン・セグセン (tb. arr)、ジミー・フォード (as)、ジョン・レイコ (ts)、ウリー・メイティス (ts. arr)、ジェイ・キャロル (bs)、ジョー・ハンチ (p)、ジミー・ラウザー (b)、エイク・ハナ (ds)、ボブ・フランドマン (arr)</p> <p>【録音】1958年5月6~8日　ニューヨーク</p>	

ストレート・アヘッドな魅力をいっぱんに発揮していった時期のメイナード・ファーガソンのオーケストラ。若きスライド・ハンプトンのアレンジ作品を中心に、やはりトロンボーンに参加するドン・セグセン(!!)もベンを奪っている。胸すくようなアンサンブルとソロを堪能できる。作、58年のスタジオ録音であるが、同年ニューヨーク・ジャズ・フェスティヴァルで成功を取ったことから、このアルバム・タイトルが付けられた。

全米ポップ・チャートを席巻したジャズ・ロック大名盤。コリエル、シャーロックといった新世代ギタリストの活躍も光る。

WPCR-29031 [ATLANTIC]

ハービー・マン『メンフィス・アンダーグラウンド』

1メンフィス・アンダーグラウンド／2ニュー・オリン・アールド・ロック／3身も心も／4ジョードウ／5リパブリック讃歌

ハービー・マン (fl), ロイ・エアース (vib, cga♯), ラリー・コリエル (g), ノーニッシュ・ロング (g), レジーヤング (g), ポピー・オクスン (org), ポピー・ウッド (p, el-p), トミー・コッペリ (el-b), ホビー・グリーチ (el-b), ロズ・ラフ・ウィリアムズ (el-b), ジーン・グリスマン (ds)

【録音】2:1968年8月20日 ニューヨーク 1:31968年8月21日 ニューヨーク 3:1968年8月23日 ニューヨーク

タイトなビートに乗って心地よいメロディーが奏でられる(メンフィス・アンダーグラウンド)。当時全米ポップ・チャートの上位にもランクされた、ハービー・マン最大のヒット作である。他にもゲイリー・U.S. ボンズ(ニュー・オリンズ)、サム&デイヴ(ホールド・オン)、アレサ・フランクリン(チェイン・オブ・フールズ)というヒット・レコード。メンフィスの腕利きプレイヤーたちが生み出してゆくグルーブが、いまなお眩しい。

中低音を使ったスタイルで知られるエディ・コスタがベースシストのヴィニー・パークと組んだトリオの傑作。「スウィート・アンド・ラヴリー」ではヴァイプも演奏。「イエスタデイ」は名曲。

WPCR-29033 [JUBILEE]

エディ・コスタ&ヴィニー・パーク・トリオ

1魅惑のリズム／2ユニゾン・ブルース／3スウィート・アンド・ラヴリー／4レッツ・ドゥ・ウィット／5イエスタデイ／6ハイランドライヴァー／7イット・クッド・ハブ・トゥ・ユー／8ゲット・ハッピー／9ジーン・バス・グループ

エディ・コスタ (p, vib♯), ヴィニー・パーク (b), ニック・スタヒラス (ds)

【録音】1956年2月 ニューヨーク

メロディックな中に躍動的なタッチを聴かせて、ユニークな個性をふりまいていったバニスタのエディ・コスタ。ジュビリーに吹き込まれた本アルバムは、そんなエディ・コスタの初リーダー作にあたるものである。盟友のベーススト、ヴィニー・パークのプレイも光っている。(ゲット・ハッピー)の叩きつけるようなタッチは、まさにコスタならではのもの。(スウィート・アンド・ラヴリー)では、コスタがヴァイプも披露してみせる。

キャノンボール・アダレイのグループで頭角を現したオーストラ出身のピアニスト、ジョー・ザヴィヌルのアトランティック第1弾。ニューヨークで活躍する一流ジャズメンを賢沢に起用した豪華盤。

WPCR-29035 [ATLANTIC]

ジョー・ザヴィヌル『マネー・イン・ザ・ポケット』

1マネー・イン・ザ・ポケット／2イフ／3マイ・ワン・アンド・オンリー・ラヴ＊／4ミッドナイト・ムード／5サム・モア・オブ・ダット／6ジャロンス・ワルツ／7リヴァー・オン／8デル・サッサー

*MONO

ブルー・モリツェル (tp), ジョー・ハンダーソン (ts), クリフォード・ジョーダン (ts), ベッツィ・アダムス (ds), ジョー・ザヴィヌル (p), サム・ジョーンズ (b), ボブ・クラッシュワフ (b), ルイス・ヘイズ (db), ロイ・マッカーディー (ds) 他

【録音】1966年2月7日 ニューヨーク

“ウェザー・リポート”の中核メンバーとして、また“ザヴィヌル・シンジケート”のリーダーとして、いつも意欲的な創造を続けていたジョー・ザヴィヌルが60年代半ば、まだキャノンボール・アダレイ・バンドに参加していた頃に吹き込んだ、ファンキーな魅力あふれるアルバム。ジャズ・ロック風の(マネー・イン・ザ・ポケット)は、まさに感涙もの1曲。この曲をはじめ、ザヴィヌルの多才な実力がよく示された作品になっている。

映画『大運河』のためにジョン・ルイスが作曲、その成功が映画音楽にモダン・ジャズを取り入れる契機となった格調高い名盤。

WPCR-29037 [ATLANTIC]

モダン・ジャズ・カルテット『たそがれのヴェニス』

1ゴールデン・ストリート／2ひととけつ／3ローズ・トルク／4行列／5ヴェニス／6三つの窓

ジョン・ルイス (p), ミルト・ジャクソン (vib), パーシー・ヒース (b), コニー・ケイ (ds)

【録音】4:1957年4月4日 ニューヨーク 1:31957年8月24日 マサチューセッツ州ノックス[ミュージック・イン]

ターナーの絵画を使った美しいジャケット。カヴァーも印象的なこの作品は、ロジェ・ヴァリア監督による57年の映画『大運河』のためにジョン・ルイスが書いたスコアを MJQ が演奏したのも、映画のシーンに息事してマッチしているだけでなく、俊俏な MJQ の個性が最高に発揮されて、純粋なジャズ作品としてもこの上なく魅力的なアルバムになっている。翌年のダウンビート誌でも“ベストジャズ作品”に選ばれた名盤中の名盤。

ジャズ・ピアノの巨人パウエルが、エリントンのプロデュースの下、異郷の地で残した晩年の傑作。ピッコポの名曲を中心に、格れた味わいのなかにも、絶頂期を思わせる渾身のプレイを繰り広げる。

WPCR-29032 [REPRISE]

パド・パウエル・イン・パリ

1ハウ・ハイ・ザ・ムーン／2ディア・オールド・ストックホルム／3身も心も／4ジョードウ／5リパブリック讃歌／6サテンドール／7パリの大通り／8言い出しかねて／9リトル・ベニー／10オリジナルLP未収録曲 10インディアナ 11Bフラット・ブルーム

パド・パウエル (p), シルベール・ロヴェル (b), カール・ネル (ds)

【録音】1963年2月 フランス、パリ

“パップ・ピアノの父”と呼ばれたパド・パウエル。50年代半ばからは体調を崩して、往時の精彩がみられなくなっていたもののトリオであったが、59年にパリへ移住してからは、少しずつペースを取り戻していったように見える。そんなパリ時代に吹き込まれた本作でも、パウエルいつもの調子を出している。(ディア・オールド・ストックホルム) (ジョードウ)などの人気曲もプレイ。後期パウエルを代表する名作になっている。

不世出の名ピアニスト、フィニス・ニューボーンがルーレットに残した珠玉のピアノトリオ第1弾。感傷的なメロディで人気の「コールデン・イヤリングス」他、愛らしい楽曲が並ぶ。

WPCR-29034 [ROULETTE]

ピアノ・ポートレイツ・バイ・フィニアス・ニューボーンJr.

1スター・アイズ／2ゴールデン・イヤリングス／3イツ・オールライト・ウィズ・ミー／4言い出しかねて／5スウィート・アンド・ラヴリー／6ジャスト・イン・タイム／7キャラヴァン／8フォー・オール・ウィ・ノウ／9(ブルース・テーマ) フォーレフト・バンド・オンリー／10チェルシー・ブリッジ

フィニアス・ニューボーンJr. (p), ジョン・シモンズ (b), ロイ・ヘインズ (ds)

【録音】1958年6月17日、18日 ニューヨーク

華麗なテクニクと小気味よいピアノ・タッチを聴かせたフィニアス・ニューボーンが、ルーレットに移籍して吹き込んだ珠玉のトリオ・アルバム。たっぴりとテンガを落とす抒情的な美しさが浮かび上がる(ゴールデン・イヤリングス)。リズムックなアレンジで聴かせる(キャラヴァン)や、左手だけで弾く(フォーレフト・バンド・オンリー)など、フィニアスならではの個性に彩られた演奏ばかりが並んでいる。

MJQの名前を決定的なものとしたアトランティック移籍第1弾。

WPCR-29036 [ATLANTIC]

モダン・ジャズ・カルテット『フォンテッサ』

1ヴェルサイユ／2エンジェル・アイズ／3フォンテッサ／4虹の彼方に／5フルトン・ロジ／6ウィロウ・ウィーブ・フォー・ミー／7ウェディン・ユー

ジョン・ルイス (p), ミルト・ジャクソン (vib), パーシー・ヒース (b), コニー・ケイ (ds)

【録音】1:41956年1月22日 ニューヨーク 2:1956年2月14日 ニューヨーク 3:1956年1月22日

典雅な響きをもつ細曲風の(フォンテッサ)。16世紀頃のイタリアで上演された即興演劇にインスパイアされた作品には、MJQのリーダー、ジョン・ルイスの美学がもっともよく表れているように思う。他のスタンダード曲も、MJQならではの均整のとれた美しさが感じられるものばかり。アトランティックと契約を結んだ MJQ による吹き込まれたこのレーベルからの第1弾。彼らの最高作との評価をほしこまにまってきたアルバムである。

格調高く、ブルージーでスピリチュアルな演奏をフィーチャーした MJQ の名盤。緩急緩と三角形に展開するタイトル曲が圧巻。

WPCR-29038 [ATLANTIC]

モダン・ジャズ・カルテット『ピラミッド』

1ヴァンドーム／2ピラミッド(ブルース・フォー・ジュニア)／3スウィングしなけりや意味ないね／4ジャンゴ／5ハウ・ハイ・ザ・ムーン／6ロメイン

ジョン・ルイス (p), ミルト・ジャクソン (vib), パーシー・ヒース (b), コニー・ケイ (ds)

【録音】1959年8月22日、25日、12月21日 / 1960年1月15日

美しいアルバム・カヴァーとともに、MJQのアトランティック・レコーディングの中でもっともときわ高い人気をもっている「ピラミッド」。マハリヤ・ジャクソンの歌を聴いて感銘を受けたレイ・ブラウンが作曲したタイトル曲をはじめ、(ジャンゴ) (ヴァンドーム) の再演。MJQ 流の美学が光る(スウィングしなけりや意味ないね)など、印象深い演奏が並ぶ。MJQの創作活動がピークを迎えていた時期に録音された、不滅の名演奏。

最強の布陣を誇ったギル・エヴァンス・オーケストラの70年代を代表する三大アルバムのひとつ。ニューヨークにおける熱狂のライブ。

WPCR-29039 [ATLANTIC]

ギル・エヴァンス『スヴェンガリ』

1サラブレッド／2ブルース・イン・オービット／3#11／4渴望の涙／5サマータイム／6ジー・ジー

ギル・エヴァンス (p, el-p, arr, cond), スーザン・エヴァンス (perc), テッド・タンパー (g), ハワード・ジュニア (el-b), ブルース・テイラー (ds), デイヴィッド・ドン・コッポラ (as), ビル・パーマー (tr), ハロルド・ヴァン・ドレン (fl), ジョー・ターナン (tp), テックス・アフレ(リ), リチャード・ウィリアムズ (tb), ジョー・デューラー (tb, tu), シロノブ・ワグマン (thr), ビクター・ワグマン (fhr), ドレク・ワグマン (dr), ジョー・スミス (ss, ni), ハワード・ジョンソン (tu, bs, fln), デヴィッド・ポロウツク (sym)

【録音】1973年5月30日 ニューヨーク [トリニティ・チャーチ], 6月30日 ニューヨーク [ワイルド・マン・ミュージック・ホール]でのライブ

独創性あふれるアレンジを生運にわたって書き続けたギル・エヴァンスが、70年代に吹き込んだビッグ・バンド・ジャズの大作傑作。チュー・パレイン、シンセイザーなどを縦横に駆使したカラフルなサウンドもさることながら、手作り感覚あふれるペン・さきが生み出す大胆でスリリングなオーケストレーションがたまらない。デヴィッド・ワンボーン以下、そうそうたるメンバーが繰り出すソロにも文句なく興奮させられる。

ビッグ・バンドの黄金時代に人気を博した個性派歌手の、月をテーマにした楽曲を集めた企画盤。ディ・チャールズやビル・ルizzoらによる編曲も多彩。味わい深い彼女のヴォーカルを堪能できる。

WPCR-29041 [JUBILEE]

メアリー・アン・マッコール『ディトウアート・オブ・ザ・ムーン』

1ディトウアート・アヘッド／2アイ・ウィット・シェド・オン・ザ・ムーン／3ザ・ムーン・ワズ・イロー／4オー! ユー・クレイジー・ムーン／5ムーンライト・ピカラム・イン・タイム／6ムーン・グロウ／7シャイン・オン・ハーヴェスト・トーン／8ブルー・ムーン／9イースト・オブ・ザ・サン／10ノーマン・アット・オール／11イツ・オンリー・ア・ペイパー・ムーン 12ムーン・カントリー

メアリー・アン・マッコール (vo), マル・ウォルドロン (p), ジミー・レイニー (g) 他

【録音】1958年3月 ニューヨーク

メアリー・アン・マッコールは、ウディ・ハーマー楽団などで歌っていた実力派シンガーのひとり。彼女のアルバムは数枚がこぼした個性派歌手の、月をテーマにした楽曲を集めた企画盤。ディ・チャールズやビル・ルizzoらによる編曲も多彩。味わい深い彼女のヴォーカルを堪能できる。ちよびりムスキーでジャジーな魅力をもった好唱の数々。タイトルに示されているように「月」にちなんだナンバーばかりを集めた企画も秀逸。スロー・テンポのバラードが中心で、ゆったりした表現がとても心地よい。

アトランティック・レーベルに多くの傑作、名盤を残したクリス・コナーの記念すべき第1弾。3種類の伴奏をバックに、スマートでリリカルな歌唱を聴かせる。

WPCR-29043 [ATLANTIC]

クリス・コナー

1君にこそ心ときめく／2生きるためのもの／3ゲット・アウト・オブ・タウン／4若い子／5エンシグ・コース／6ホエ・ザ・ワイルド・オズ・グリーン／7私は良ききた後／8ユー・メイク・ミー・フィール・ブルーヤ＊／9エヴリタイム 10エヴリ・アット・ゼア 11マイ・エイブル・ハート 12恋しているようだ 【オリジナルLP未収録曲】13サーカス 14フライング・ホム ＊ MONO

クリス・コナー (vo), ニック・ストラシス (tp), スト・シムズ (ts), ジョナル・レイ (p), ビル・カフ・レイ (g), マカ・ベネディクト (b), ミルト・ジャクソン (vib), コニー・ケイ (ds), オジー・ジャクソン (ds), ラルフ・パーズ (arr, cond), オータストラ

【録音】2:61956年1月19日 ニューヨーク 1:41956年1月23日 ニューヨーク 3:1956年2月8日 ニューヨーク 1956年不明

白人女性ジャズ・ヴォーカリストとして最高の実力と人気をもっていたクリス・コナー。ベトナムからアトランティックに移籍して最初に吹き込んだアルバムが、この「クリス・コナー」である。ハスキーな声質とコントロールのきいたクールな感覚の歌唱から、ゆたかな抒情が広がってゆく。バックを流プレイヤーによるコンボイ・オーケストラが受けもたいて、どれもクリス・コナーの個性が十二分に引き出された名唱ばかりになっている。

マハリヤ・ジャクソンによって見出されたデトロイト出身の歌手が、シカゴの有名クラブでピアノ・トリオをバックに歌ったリリカルな実況盤。正統派のスタイルで、デラならではの個性や魅力がよく出ている。

WPCR-29045 [JUBILEE]

デラ・リース『ア・デート・ウィズ・デラ・リース』

1サム・タイムズ・アイム・ハッピー／2幸せなジョー／3オールモスト・ライク・ピーニン・イン・ラヴ／4サム・ワントゥ・ウォッチ・フォー・ミー・ミー／5ブルースの誕生／6ベニー・フロム・ヘヴン 7ゲッティン・グ・トゥ・ユー／8イフ・アイ・フォゲット・ユー／9オール・オブ・ミー／10アナ・オブ・ユー／11ジャスト・ワン・オブ・ゾーズ・シングス 12ザ・パーティーズ・オーバー

デラ・リース (vo), テクス・スチワート (tr), ジョニー・フリゴ (b), デイヴ・ボスコカ (b), ノーマ・ジェブリス (ds), ジャック・ルン (ds)

【録音】1974年11月25日 ニューヨーク [エイヴリー・フィッシャー・ホール]でのライブ

シカゴの伝説的なジャズ・クラブ「ミスター・クリズ」は、繰りひろげられたデラ・リースのライブ。軽快なリズムに乗ったデラ・リースの表現は、まさに観念的な、ブルースやゴスペルをベースにもつトップ・シンガーとしての実力を見せている。(ハピネス・イズ・ア・ジュー・コールド・ジョブ) (アナ・オブ・ユー) をはじめとする豊かなバラード表現も素晴らしい。バックのトリオがいつもの興趣を生み出してゆく。

ご存じ、通称「踊り子」で知られるベイチの人気盤。アート・ベッパーをはじめとする名手を迎え、スタンダードを題材に、洗練されたビッグ・バンド・サウンドを展開。

WPCR-29040 [WARNER BROS.]

マーティ・ペイチ『ブロードウェイ・ビッツ』

1私は御満足／2あの娘に慣れた／3アイヴ・ネヴァー・ビーン・イン・ラヴ・ビフォー／4アイ・ラヴ・ハリ／5トゥークロス・フォー・コンフォート／6春よりも若く／飾りのついた四輪馬車／7イフ・アイ・ワー・ア・ペル 8レイジー・アファターン 9ジャスト・イン・タイム

マーティ・ペイチ (p, arr), フランク・ビッチ (tp), スチュウリアムソン (tp, vb), ヨーシ・ロバート (tb), ポプ・エネフォルゼン (tb, ts), ウィン・デローザ (fhr), フレッド・ワグマン (ds), ビル・パーキス (tr), ジミー・ジョー (fl), クラック・フルトマン (vib, perc), スコット・ラフロー (b), マル・ルイス (ds)

【録音】1959年5月13日 ロサンゼルス

西海岸ジャズの名アレンジャーとして活躍したマーティ・ペイチが存分に腕をふるった中型ビッグ・バンド編成による59年の作品。ロード・ウェイ・ミュージカルの曲を爽快なアレンジで聴くことができるだけでなく、随所にフィーチャーされるアート・ベッパのソロが光る。この頃に映画化もされたものの、(コナー・ジョー・セル)や(アイ・アポロジャイズ)という過去のビッグ・ヒットをセルフ・カヴァーしているのも嬉しい。

「ミスター・B」の愛称で知られるバリン歌手おなじみのラウ・ラウ・ソングをせつなく歌った大人のバラード集。ストリングス、ビッグ・バンドの伴奏で苦味走った男の魅力が横溢。

WPCR-29042 [ROULETTE]

ビリー・エクスタイン『ワンズ・モア・ウィズ・ファイリング』

1ワンズ・モア・ウィズ・ファイリング／2ストローミー・ウェザー／3コナー・ジョー・セル／4ブルース・イン・ザ・ナイト／5アイ・ア・ラブ・ディ／6時の過ぎゆくまに／7ザット・オール・ブラック・マジック／8アイ・アポロジャイズ 9アイ・ラヴ・ユー 10ウィズ・エヴリ・プレス・アイ・テイク 11シークレット・ラヴ 12アイム・ゼキニグ・トゥ・ジュー・ザ・ライト 【オリジナルLP未収録曲】13エンシグ・ユー・ワントゥ・ノウ 14ライク・ウオ

ビリー・エクスタイン (vo), ビリー・メイ (arr, cond) 他

【録音】1:1959年11月28日、1960年1月28日 ロサンゼルス 2:141959年11月28日、1960年1月28日 ロサンゼルス 3:1959年7月29日、30日 ニューヨーク

「ノー・カヴァー・ノー・ミニマ」に続いて制作されたビリー・エクスタイン、もう一枚のトリオ盤。ビリー・メイのオーケストラ・アレンジをバックに、バラードからスウィングなナンバーまで、どの曲も表情ゆたかに歌ってみせる。タイトル曲はミュージカルの主題歌で、この頃に映画化もされたものの、(コナー・ジョー・セル)や(アイ・アポロジャイズ)という過去のビッグ・ヒットをセルフ・カヴァーしているのも嬉しい。

ハスキーな歌声。さわやかな色気。会場の臨場感。会場の臨場感。一流ミュージシャンで固め、心地よいムードが漂うライブ名盤。

WPCR-29044 [ROULETTE]

クリス・コナー『ヴェリッジ・ゲイトのクリス・コナー』

-EARLY SHOW- 1ロット・オブ・リヴィン・トゥ・ウ／2アイ・プレイス・アイ・ハヴ・グ・マイ・ハート・イズ・ホム／3オール・オブ・ナッシング・アット・オール 4サム・シング・スカミング／5セント・ルイスからはばると 6オール・デイル・ムーン -LATE SHOW- 7アイ・コンセントレイト・オン・ユー 8ラック・コービー 9グッド・バイ 10オンリー・ザ・ロリー 1110センチ・ア・ダンス

クリス・コナー (vo), ロニー・ロー (p), マンネル・ロウ (g), リチャード・デイヴィス (b), エド・ジョンソン (ds)

【録音】1963年 ニューヨーク [ヴェリッジ・ゲイト]でのライブ

絶頂期のクリス・コナーがニューヨークの一流クラブで繰りひろげたステージ。前半がアーリー・ショウでスウィングなナンバーが主体。後半は夜も更けてからのレイト・ショウで、じっくりと聴かせるバラードの中という構成になっている。くづりたクラブができて、クリス・コナーの好ましきジャズ・フィリングがいろいろに発露されてゆく。当初はFMというイナナー・レーベルから世に出た、貴重なライブ・アルバムである。

39歳の若さでこの世を去ったブルースの女王が、晩年のルーレット時代に残した傑作。情豊かなバラードからパンチ効いたスウィングまで自由自在に歌い上げる。

WPCR-29046 [ROULETTE]

ダイナ・ワシントン『ダイナ'62』

1リリキンギン・アゲイン／2ステイ・イン・ムーン／3ミクス／4ア・ハンドフル・オブ・スターズ 5イズ・ユー・イズ・オア・イズ・ユー・イベント・イフ・イフ／6ユア・ノー・ボディ・テル・サム・バ・デア・ラヴ・ユー 7夕日・赤い帆 8ホエア・アー・ティ・ル・ユー 9コケット 10テイク・ユア・ジューズ・オフ・ペーパー 【オリジナルLP未収録曲】11イク・ビリーヴ・ドリームス 12サム・シングス・ガッタ・ギヴ 13アイル・ネヴァー・ストップ・ラヴィン・グ・ユー 14ミ・アム・ダイ・マジック

ダイナ・ワシントン (vo), フレック・ノーマン・オーケストラ 他

【録音】12:1962年3月 ニューヨーク 3:141973年10月 1962年3月15日 ニューヨーク 1:1962年3月18日 ニューヨーク

ソウルフルな歌声を聴かせて「ブルースの女王」という称号も得ていたダイナ・ワシントン。ルーレット・レーベルに移籍して、最初制作されたアルバムが本作である。フレッド・ノーマのアレンジをバックに、ふよふよな表現を聴かせる彼女の歌声は、まさにペテランの味。輝かしさや力強さをもちながら、繊妙なヴォイス・コントロールで聴かせてゆく。翌年末に39歳という若さで亡くなってしまったダイナ、晩年の秀作。

聴くものの魂を激しくゆさぶる、ニーナのスピリチュアルな世界。ピアノ・トリオで作り上げていく名門ホールでの初期ライブ名盤。

WPCR-29047 [COLPIX]

ニーナ・シモン・アット・タウン・ホール



1)ブラック・イズ・ザ・カラー・オブ・マイ・トゥルーパー・ラヴズ・ヘア / 2)エグザクツリー・ライヴ・ユア / 3)ジャザー・ウーマン / 4)アンダー・ザ・ロー・エスト / 5)ユー・キャン・ハヴ・ヒム / 6)サマータイム(インストゥルメンタル) / 7)サマータイム(ヴォーカル) / 8)コウトン・アイド・ジョー / 9)リターン・ホーム / 10)ワイルド・イズ・ザ・ウィンド / 11)ファイン・アンド・メロー

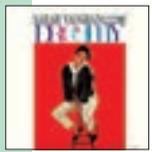
ニーナ・シモン (vo. p), ジミー・ボンド (b), アル・ヘルス (ds) [録音] 1959年9月12日 ニューヨーク・タウン・ホールでのライブ

〈アイ・ラヴズ・ユー・ボーギー〉のヒットをはなつてスター・シンガーへの道を歩みはじめたニーナ・シモンにとって、新たなステップの始まりにもなったタウン・ホールでのコンサート。ピアノの椅子に座り、ブルージョーな作品からフォーク、トラッド・ナンバーまで、ひとつひとつのフレーズを噛みしめるように弾きながら歌ってゆく。聴衆に大きな感銘を与えたこの夜の雰囲気を手にとるように味わうことのできるライブ盤。

ジャズ史上に残る不世出の歌手サラのルーレット移籍第1弾。ピアノの名手ジミー・ジョーンズのオーケストラをバックに、数々の名曲をゴージャスに唄い上げた名盤。

WPCR-29049 [国内初CD化] [ROULETTE]

サラ・ヴォーン『ドリーマー』



1)ドリーマー / 2)ハンズ・ア・クロス・ザ・テーブル / 3)ザ・モア・アイ・シー・ユー / 4)アイル・ビー・シー・インク・ユー / 5)スター・アイズ / 6)ユー・ヴ・チェンジド / 7)ツリーズ / 8)ホワイ・ワズ・ア・ボーイ・ボーン / 9)マイ・アイディアル / 10)クレイジー・ヒーロー・コールズ・ミー / 11)ストロミー・ウェザー / 12)マイアスの月

サラ・ヴォーン (vo), ジミー・ジョーンズ・オーケストラ, ハリス・ウィーツ・エディン (tp), ロンネル・ブライト (c, celesta) 他 [録音] 1960年4月19日 ニューヨーク

マーキュリーからルーレットに移籍したサラ・ヴォーンが吹き込んだ、このレーベルからの第1弾。パレード表現の素晴らしいにスボットが並んで来た作品で、ロマンティックな雰囲気とともにサラの鋭い力をもった歌声の素晴らしさに酔うことができる。タイトル曲はエロール・ガーナーがメロデーを書いた秘曲。めったに歌われないこのないナンバーをトップにもってきているあたりからも、サラの自信のほどがよく窺える。

いまも絶大な人気を誇る永遠の歌姫。ビヴァリー・ケニーのルースト3部作の記念すべき第1弾。ギターの名手ジョニー・スミスのコンボをバックに、さわやかな声質で清涼感のある歌声を聴かせる。

WPCR-29048 [ROOST]

ビヴァリー・ケニー・シングス・フォー・ジョニー・スミス



1)飾りのついた四輪馬車 / 2)ティス・オータム / 3)ルッキング・フォー・ア・ボーイ / 4)アイル・ノウ・マイ・ラヴ(グリーン・レイヴン) / 5)デスティネーション・ムーン / 6)ポール・アンド・チェイム(スウィート・ロレイン) / 7)オール・モスト・ライク・ヒーリング・イン・ラヴ / 8)星へのさざし / 9)ゼア・ウィル・ネヴァー・ビー・アナザー・ユー / 10)ジリス・リトル・タウン・イン・パリ / 11)モーズ・ブルース / 12)スナググルド・ユー・ア・シムルダ

ビヴァリー・ケニー (vo), ジョニー・スミス (g), ホバナン・コースト (p), ジョー・シラー・ムーニ (b), ジェリー・シール (ds) [録音] 1955年 ニューヨーク

チャーミングな歌声とともにジャジーなフィリングをいっぱいふりまいていったビヴァリー・ケニー。これは28歳という若さで世を去ってしまった彼女が55年、ルーストに吹き込んだデビュー作である。おなじみのスタンダードに混じって、〈ティス・オータム〉(ジリス・リトル・タウン・イズ・パリ)のように涼しい曲が含まれていて、これがまたいい。人気ギタリスト、ジョニー・スミスのカルテットも極上のサポートぶりを見せている。

迫力満点のヴォイスから微妙なニュアンスまで表現した稀代の歌姫。ギターとベースのみの伴奏で名曲を綴った、ルーレット時代の代表作。

WPCR-29050 [ROULETTE]

サラ・ヴォーン『アフター・アワーズ』



1)マイ・ファイヴァリット・シングス / 2)さよならを言う度に / 3)ワンダー・ホワイ / 4)イー・ジートゥ・ラヴ / 5)ソ・ファスティケイテッド・レディ / 6)グレイト・デイ / 7)イル・ウィンド / 8)楽しい恋なら / 9)イン・ア・センチメンタル・ムード / 10)ヴァンティ

サラ・ヴォーン (vo), マンデル・ロウ (g), ジョー・ジ・デュヴィエイ (b) [録音] 1961年7月18日 ニューヨーク

ギターとベースだけのシンプルなバックを得て、サラ・ヴォーンがしっかりと歌声を聴かせる。タイトルどおりに夜も更けたクラブのような、くつろいだ雰囲気がよく感じられる作品。それでもサラならではの確かな表現力の能力は変わらない。それだけでなく、簡潔ともいえる響きの中から、彼女の微妙な感情の暖かみや繊やかなニュアンスのようなものがよく伝わってくる。サラのファンには必聴の名盤になっている。

JAZZ MASTERS COLLECTION 1200 第2弾(全50タイトル) 2016年7月27日発売 24bit デジタルリマスターリング / 完全限定盤 SHM-CD仕様 価格:¥1,200(本体)+税

ピアノ・トリオの金字塔であり、バド・パウエルの最高傑作としてもお馴染みのルースト大名盤。

WPCR-29051 [ROOST]

バド・パウエル『バド・パウエルの芸術』



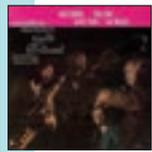
1)四月の思い出 / 2)インディアナ / 3)誰かが私を愛してる / 4)アイ・シュッド・ケア / 5)ワイルド・パヴル(ワイルド・ペニー・クワイジ) / 6)オ・マイナー / 7)首尾長い時は / 8)エヴリシング・ハヴン・ア・ホーム / 9)エヴリソフ・ユー / 10)バード・カーク・ア・バド・ヒン・ア・バド・サウズ / 11)アイ・ハート・スクッド / 12)ステイ / 13)ユード・ビ・ソ・ナイス・トウ・カム・ホーム・イク / 14)バグズ・グルーヴ / 15)マイ・デヴァーション / 16)星影のステイ(ピアノソロ) / 17)ワグ・イン・ユー / 18)バド・パウエル(tp), カーリー・ラッセル(b), マックス・ローチ(ds) [録音] 1947年1月10日 ニューヨーク

“モダン・ピアノの父”と呼ばれた天才バド・パウエルの絶頂期の姿がとらえられている傑作アルバム。テクニクはもちろん、乗りまくったときのパウエルの凄まじく、フレーズのひとつひとつから滲み出してくる、いっぽうで〈アイ・シュッド・ケア〉(エヴリシング・ハヴン・ア・ホーム)などのパレードでみせる、深い陰影をたたえた抒情あふれるタッチ。真のリリズムに塗りたくられた、パウエルならではの孤高の表現が最高だ。

ハード・バップ黄金時代、新進気鋭の若獅子たちが名門クラブに集結した豪華絢爛たるジャム・セッションの続編。モプレー、モーガン、フラーらが気合いの入ったソロを聴かせる。

WPCR-29052 [ROULETTE]

リー・モーガン&カーティス・フラー『アナザー・マン・ディ・ナイト・アット・バードランド』



1)イツ・ユー・オア・ノー・ワン / 2)ジャンプ / 3)ナット・トヴィル / 4)ウーイ

リー・モーガン (tp), カーティス・フラー (tb) [共演], ハンク・モプレー (ts), ビリー・ルット (ts, bs), レイ・ブレイアント (b), トミー・プライアント (b), スペック・クライト (ds) [録音] 1958年4月28日 ニューヨーク・バードランドでのライブ

「マン・ディ・ナイト・アット・バードランド」の翌週の月曜日に繰りひろげられた、もうひとつのジャム・セッションのステージ。ハード・バップの中核プレイヤーへと成長をとげてゆくメンバーたちが、まさに火の玉。熱いエネルギーをいっぱいに発散させてみている。とくに豊かなアイデアを繰り出すリー・モーガンのプレイに注目。彼のソロを筆頭に、ニューヨークの一流クラブがたまたないグルーブに包まれてゆく。

レーベル紹介 ①

ATLANTIC 1947年10月、駐米トルコ大使の息子でイスタンブール生まれのトルコ人、アーメット・アティガンと、歯科医を目指していたブルクリン生まれのアメリカ人、ハーブ・エイブラムスの2人によって設立。最初はリズム&ブルース専門のマイナー・レーベルとしてスタート。モダン・ジャズの名門レーベルとなつたのは、アーメットの実兄ネズヒ・アティガンが運営に参加するようになった1955年以降である。

それまでアトランティックは、シングル盤やEP盤でのヒットを狙っていたが、ネズヒの参画で、方針を変更。アルバム中心の制作に切り替えた。当時流行のウエスト・コースト・ジャズ、レニー・トリスターノやリー・コニッツといった白人のクール・ジャズを積極的に手がけるようになる。

1956年、モンティ・ケイの紹介で、モダン・ジャズ・カルテットがプレスティッジから移籍すると、ネズヒは多くのミュージシャンから絶大な信頼を獲得するようになる。その結果、チャールズ・ミンガス、ジョン・コルトレン、オーネット・コールマンといったモダン・ジャズ史上、爆然と輝く巨人たちの名盤を数多く世に送り出すことに成功したのであった。ネズヒは、肌の色の違いでミュージシャンを差別することなく、白人でも黒人でも、優れた才能をもつ新人に多くの録音の機会を与えた。ジョー・ティン・ロジャース、ジミー・ジュフリア、歌手ではレイ・チャールズ、クリス・コナー、メル・トーマらが録音を残している。

プレスティッジから移籍したジョン・コルトレンは、「ジャイアント・ステップス」と「マイ・フェイヴァリット・シングス」という2大名盤を残し、ジョン・ルイスの進言で契約したオーネット・コールマンは、「ジャズ来るべきもの」や「フリー・ジャズ」といった歴史的な名盤をアトランティックに残した。

60年代に入ると、ネズヒの信頼を得たジョエル・ドーンが入社。彼が中心となつてソウル・ジャズのヒットを発表する。モードやフリーの流行など、ジャズ界に大きな変化が訪れたが、アトランティックはもともとリズム&ブルースに強いレーベルであったことを生かし、ハービー・マンが「カミン・ホーム・ベイビー」のヒットを放つ。その他、アート・ファーマー&ジム・ホールのカルテット、若きキース・ジャレットやジャック・ディジョネットを含むチャールズ・ロイドのカルテットなど、60年代の後半以降も、時代を象徴するジャズ作品を数多く世に送り出したのであった。1967年、アトランティックはワーナーミュージック・グループの傘下に吸収されたが、その後も、多くのジャズの名盤が残されている。

WARRNER BROS. 1958年、同名映画会社のレコード部門として設立。ジャズ専門のレーベルではないので、より広い大衆向けの作品が中心。具体的にはマーティ・ペイチのビッグ・バンド(2枚)や、トロンボーン、サクソフーン、ギターなど、同種楽器のアンサンブルを特徴とした「INC」シリーズ、ポール・デズモンドの大名盤「ファースト・ブレイス・アゲイン」をはじめ、チコ・ハミルトン、モリス・ナントンの作品がマニアを中心に根強い人気を誇っている。

REPRISE 1961年1月、大歌手フランク・シナトラが、カリフォルニア州バーバンクで設立した自主レーベル。シナトラはキャピトルとの契約がまだ残っていたが、売れ線の録音を強要されることを嫌って移籍を決定、当初はヴァーヴをMGMから買収することも考えたがうまくいかず、結局自分のレーベルを設立したのだった。

シナトラの意向を反映して基本的にスタンダード・ヴォーカル中心のレーベルで、シナトラ自身の作品も多く、シナトラ一家のティーン・マーティン、サミー・デイヴィス・ジュニアのアルバムも人気盤となっているが、自身の録音も数多く残されている。シナトラの依頼で、デューク・エリントンがプロデュースしたジャズ作品(バド・パウエル・ダワー・ブランド)もある。具体的なジャズ・アーティストとして、デューク・エリントンとカウント・ベイシーの両巨頭を筆頭に、ベン・ウェブスター、フランク・ロズリーノ、チコ・ハミルトン、ジョー・ティン・ロジャース、ジミー・ウィザースプーン、エロール・ガーナー、ジャック・シェルドンなど。

1963年初頭、シナトラは、このレーベルの株式の2/3をワーナー・ブラザーズに売却するが、その後設立者の意向を反映して、ジャズ系録音も残された。ただ時代を反映して、ポップ志向のジャズが多いのが特徴である。

哀愁のアルト奏者マクレーンが、珍楽器チューバを含む3管編成で挑んだハード・バップ人気盤。

WPCR-29053 [JUBILEE]

ジャッキー・マクレーン・セクステット『ファット・ジャズ』



1)ファイアード / 2)ミリス・バッド / 3)トゥー・サンズ / 4)ホワット・グッド・アム・アイ・ウィズ・ア・ウ・ユー / 5)チェーン・アップ / ジャッキー・マクレーン (as), ウェブスター・ヤング (tp), レイドレイバー (tu), キルコペンズ (b), ジョー・ジ・デュヴィエイ (b), テリー・リッチー (ds) [録音] 1957年12月27日 ニューヨーク

ジャッキー・マクレーンによってジュビリーに吹き込まれた、もう一枚の名盤。盟友ウェブスター・ヤングとともに、まだ16歳だったチューバ奏者のレイ・ドレイバーを加えた3管編成特徴。そのドレイバーのオリジナル(ファイアード)と(トゥー・サンズ)は、哀愁を帯びたメロデー・ラインがともて印象深い。パレードの(ホワット・グッド・アム・アイ・ウィズ・ア・ウ・ユー)も、怒りをとも響きが心に染みわたる一曲になっている。

ソニー・スティットはルーストに多くの作品を残したが、これは50年代後半に残された人気盤。チャーリー・パーカーゆかりのスタンダードを中心にのびのびと吹いている。

WPCR-29055 [ROOST]

ソニー・スティット『37ミニッツ・アンド・48セカンズ』



1)ビコース・オブ・ユー / 2)ブルー・ムーヴ / 3)ウィンディ・ソング / 4)バット・ソング・フォー・ミー / 5)ホワット・イズ・ジス・シング・コールド・ラヴ / 6)ハーレム・ノクターン / 7)スイート・ジョージ・ア・ブ라운 / 8)ブルース・フォー・ヤード / 9)スクラップル・フロム・ジ・アップル / ソニー・スティット (as), ドロ・コカー (p), エドガー・ウィリス (b), ケーネーニズ (ds) [録音] 1956年末 または 1957年1月23日 ニューヨーク

56年に吹き込まれたソニー・スティットの、もう一枚のワン・ホーン・アルバム。名高い「ソニー・スティット・プレゼンツ」に対して「ウラ名盤」的なニュアンスをもっているのは、リズム・セクションの顔ぶれの違いによるものかもしれない。もちろんスティット自身は絶対調。(ビコース・オブ・ユー)のようなポップ曲も、鮮やかにスウィングなバップ演奏の素材として料理してみせる。哀愁を帯びた(ハーレム・ノクターン)も悪くない。

ピアノの鬼オフィニアスが50年代ルーレットに残したピアノ・トリオ人気盤のひとつ。親しみやすい選曲とわかりやすい演奏、ジャケットも秀逸。

WPCR-29054 [ROULETTE]

フィニアス・ニューボーンJr.『アイ・ラヴ・ア・ピアノ』



1)A列車で行こう / 2)ジー・ベイビー・エイント・アイ・グッド・トゥ・ユー / 3)浮気はやめた / 4)アイヴ・ガット・ザ・ワールド・オン・ア・ストリング / 5)真夜中の太陽は沈まず / 6)リアル・ゴーン・ガイ / 7)アンディサイドデッド / 8)アイヴィー・リーグ・ブルース / 9)ラヴ・アンド・マリッジ / 10)キヴィー・ザ・シンプル・ライフ / フィニアス・ニューボーンJr. (p), ジョン・シモンズ (b), ロイ・ヘンズ (ds) [録音] 1959年10月26日-29日 ニューヨーク

「ピアノ・ポर्टレイト」に続くフィニアス・ニューボーン、もう一枚のルーレット吹き込み。ここでもスタンダード・ナンバーを中心に、歯切れよいプレイを聴かせる。いっぽうでブルージーな味わいももっているフィニアスの演奏。タッチの明快さとはうらはらに、どこかに騒りを感じるあたりが、フィニアスならではの持ち味といえるだろう。そんなフィニアスのピアノスティックを個性を最高に味わうことができる一作である。

ビバップの名サクソフーン奏者がワン・ホーン・カルテットで録音した開けた秀作。有名スタンダードからオリジナル・ブルースまで、よどみないソロが堪能できる。

WPCR-29056 [ROOST]

ザ・サキソフーンズ・オブ・ソニー・スティット



1)ハッピー・フェイス / 2)アム・アイ・ブルー? / 3)アイル・ビー・シン・ソング・フォー・ミー / 4)君微笑めば / 5)小さなスペインの町で / 6)ゼム・ゼア・アイズ / 7)バック・イン・ユア・ソング・ジョー・ア・ブライ / 8)フット・タッパー / 9)時には母のない子のように / 10)シャドロー・ワルツ / 11)ウィンド・アップ / ソニー・スティット (as, ts), ジミー・ジョーンズ (p, 不明), b), チャーリー・パーソンズ (ds) [録音] 1958年4月2日 ニューヨーク

気心の知れた仲間リズム・セクションに迎えて、スティットがリラックスして吹きまわっている。ここでは4曲でアルバム、6曲でテナーを吹いている。ソニー・サクソフーンをもつスティットののびやかな個性は変わらない。(ハッピー・フェイス)(フット・タッパー) (ビド)のオリジナル・ブルースでのスティットのソロは、まさにバップ・フリースの洪水。好調時のスティットの素晴らしいさを見せつけてきている。

名盤『ラスト・コンサート』の1年前。ジョン・ルイスにとって永遠のテーマというべきロック音楽の巨匠に題材を求めた秀作。

WPCR-29073 【ATLANTIC】

モダン・ジャズ・カルテット『ブルース・オン・パッサ』

- リグレット?
- Bフラットのブルース
- やさしき朝の光
- Aマイナーのブルース
- フレッシュ・ジョー
- Cマイナーのブルース
- ドン・ストップ・ジス・ドレイン
- H(B)のブルース
- ディ・アール・フロム・ザ・チルドレン

ジョン・ルイス (s. harp)、ミルト・ジャクソン (vib)、パーシー・ヒース (b)、コニー・ケイ (ds. perc)

【録音】1973年11月28日

MJQの本質とも言えるブルースと、リーダーであるジョン・ルイスの好みが反映された複雑なパッサのメロディ。ここではオリジナルのブルースとともに、MJQ流にアレンジされたパッサの作品が交互に演奏されている。グループの最大の特徴であるバランスのとれた構成美と、メンバーたちの生き生きとしたプレイの魅力が存分に発揮されているこのアルバム。アドランティック後期を代表する、MJQの名盤と言って良いであろう。

成層圏に届くようなハイノート・ヒッターとしてお馴染みのファーガソンが50年代末、ルーレットゆかりの名門クラブに出演した時期のアルバム。

WPCR-29075 【ROULETTE】

メイナード・ファーガソン『ア・メッセー・ジ・フロム・バードランド』

- オレオ
- スター・ファイア
- マーク・オブ・ジャズ
- ナイト・ライヴ
- ステラ・バイ・スターライト
- ロビン・タイム・ヴ
- バック・イン・ザ・サテライト・アゲイン

メイナード・ファーガソン (tp. v.tb12)、ドン・ルイス、ジェリー・タイルー、クライド・ロビンソン (tr)、スラッド・ハンプトン、ドニス・ゼズキース (b)、ジミー・ジョード (as)、カウメン・レギオ、ウーリー・マイケル (ts)、ジョン・ラズ (bs)、ジョー・ザヴィナル (p)、ジミー・ロウザー (d)、フランク・シンガモン (ds)、ベニー・グロブマン、マティ・ベイラー (arr)

【録音】1959年6月17日　ニューヨーク「バードランド」でのライブ

目の醒めるような鮮やかな響きをもつメイナード・ファーガソン楽団。59年の“バードランド”のステージである、アレンジメントにベニー・グロブマンとマティ・ベイチが参加。モダンかつ重厚なサウンドが生み出されてゆくのが大きなききもである。“ハイノート・ヒッター”が前面に押し出されながらメイナードであるが、バンド、リーダーとして、音楽的にも素晴らしいセンスの持ち主であったことがよく伝わってくる作品になっている。

ジャズ・トロンボーン・カルテットの傑作。フィリー・ジョーのバワフルなドラミング、ヨアヒム・キューンの自由奔放なピアノも印象深いユーロ・ジャズ人気盤。

WPCR-29077 【PARLOPHONE】

スラッド・ハンプトン『ザ・ファビュラス・スラッド・ハンプトン・カルテット』

- イン・ケース・オブ・エマー・ジェンシー
- ラスト・ミンツ・ブルース
- チャプス
- ラメント
- インボッシブル・ワルツ

スラッド・ハンプトン (tb)、ヨアヒム・キューン (p)、ニルス・ヘニング・エルステド・ベルセルク (b)、フィリー・ジョーンズ (ds)

【録音】1969年1月6日　NY

バンド・リーダー、アレンジャーとしても多岐な活躍をみせるスラッド・ハンプトンが、ここではワン・ホーンで奔放にトロンボーンを吹きまくっている。キューンのピアノがフリーキーにときめき合い、ドラムのフィリー・ジョーがこれだけでもかと躍り立てる。4人の個性のエキサイティングな激突。胸のすくような圧倒的な疾走感。トロンボーンの名盤多しといえども、これだけの熱気とスリルをもつアルバムには滅多にお目にかかれるものではない。

ユニークなスタイルで知られるピニストが1950年代後半、ジュビリーに残したピアノトリオの隠れ名盤。ドラマにはMJQの大手ニュー・ケイが参加。

WPCR-29079 【JUBILEE】

ランディ・ウェストン『ピアノ・アラモード』

- アース・パス
- 誰も知らない私の悩み (ピアノ・ソロ)
- ソーサー・アイズ
- アイ・ワット・リズム
- ジンジャー・ブレッド
- カクテルズ・フォー・トゥ (ピアノ・ソロ)
- ハニー・サッカル・ローズ
- フェ・ダブル・ユー・ブルース

ランディ・ウェストン (p)、ペック・モリソン (b)、コニー・ケイ (ds)

【録音】1957年春　ニューヨーク

リズム系を独特のタッチを纏りひろげるユニークなピアニストのランディ・ウェストン。これは彼が第一線で活動をおこなうようになった時期に、ジュビリーへ吹き込んだトリオ・アルバムである。その簡潔なプレイとともに特異なハーモニーの響きか、ランディの研ぎ澄まされたミュージック・センスを描き出す。(アース・パス) (ソーサー・アイズ) などのオリジナルには、ランディの作曲家としての才能もよく現れている。

チャーリー・パーカーとの共演でも知られるNYラテン・シーンの中心人物マチートがジョー・ニューマン、キャンボールというモダン派の名手を迎えたラテン・ジャズ人気盤。

WPCR-29074 【ROULETTE】

マチート・ウィズ・ジョー・ニューマン&キャンボール・アダレイ『ケニヤ・アフロ・キューバン・ジャズ』

- ワイルド・ジャングル
- コンコ・ミュンセス
- ケニア
- オイ・エム
- ホリデイ
- キノノロシ
- フレメンジー
- ブルース・アラ・マチート
- カンヴァン・セーシオン
- ティン・ティン・ドゥ
- マイナー・ラヴ
- ツルツル

ウチ・タム・ホル・コニエ、ジョー・ニューマン、フランク・シニエリス、フランク・シキ・トキ・グイタ (tp)、マリア・ワグザ (tp. dir)、パット・アークラット (tr)、カネデ・スラッ、サント・ム、エディ・バート、レックス・ピア (tb)、ハーモニー (ll. arr)、キャンボール・アダレイ、ジョー・リフ・スト (as)、レイ・ウチ・シニエリス (ts, arr)、ボブ・マルガン、ジョニー・ウリアフ、ホセ・マテラソ・アラ (ts)、レイ・ウチ・シニエリス (arr)、ホセ・ウチ・シニエリス (b. org. arr.) 他

【録音】1957年12月17、19、24日　ニューヨーク

ジャズとキューバ音楽をミックスさせたアフロ・キューバン・ジャズの立役者でもあるマチート楽団による57年のアルバム。またニューヨークへ出て間もなかったキャンボール・アダレイのアルバム・サックスが半数の曲でフィーチャアされているのが嬉しい。大らかなキャンソンのソロはワイルドなキューバン・ビートの中でも、じつにはまっている。ペイン・楽団のトランペッター、ジョー・ニューマンのソロも聴きものになっている。

ボストンのジャズ・シーンを長年支えた名手が率いたビッグバンドのデビュー作。ゲスト参加のズート・シムズも好演。各種ガイド本でも紹介された定評ある1枚。

WPCR-29076 【ROULETTE】

ハーブ・ボメロイ『ライヴ・イズ・ア・メモ・ス・ブレンダード・ギグ』

- ブルー・グラス
- ウオラファンツ・ラメント
- ジャック・スプラット
- アルミニウム・ベイビー
- イッツ・ソウ・ドント
- アワ・デライト
- テリーのテーマ
- リノ・サン・ウィル・ルーム・ウィズ・ミス
- フェザー・マーチャント
- ビッグ・マン
- ジャスト・トーク

ハーブ・ボメロイ、レーン・ジアンソン、オーギー・フレッジティ、エウレック・ロングスタム、ジョー・ゴード (tp)、ジョー・アワラフ・ソルト、ピル・リ・ガス、ジーン・ティ・ウチ・シ (tr)、デヴ・ウチツァマン、フランク・ル・リ (as)、ウー・ティ・ビル・チ・コニエ、ジョー・ロウザー (ts)、ズート・シムズ (ts)1213151920、ティーン・バス・キンス (ts)、レイ・ウチ・シ (arr)、ジョン・ラズ (b)、ジミー・スターノ (ds)

【録音】1957年6月3、4日1213151920

教育者としてもボストン・ジャズ界の重鎮であるハーブ・ボメロイによる本アルバムは、彼の初期のオーケストラ作品。スタン・ケントン楽団でプレイをおこなったあと、ボメロイが独立して結成した白人、黒人の混成バンドによるもので、サウンド的にも第一級のビッグ・バンド・ジャズの響きが聴かれる。やはりボストンの名手、ブーツ・ムスリヤ、ジャッキー・バイアードがサクソで参加するなど、マニア好みの楽しさをもった一枚。

グルーヴ感いっぱいの名曲『カミン・ホーム・ベイビー』の大ヒットで知られるハービー・マンの代表作。

WPCR-29078 【ATLANTIC】

ハービー・マン『ヴィ・レッジ・タイトのハービー・マン』

- カミン・ホーム・ベイビー
- サマー・タイム
- イット・エイツ・ネセサリー・ソー

ハービー・マン (fl)、ハーグッド・ホーディ (vib)、アーメド・アブドゥル・マリク (b)、ベン・タウカー (b3)、ル・ディ・ゴロンズ (ds)、レイ・マンティラ (cga, perc)、チーフ・ペイ (African drum, perc)

【録音】1961年11月17日　ニューヨーク「ヴェレッジ・タイト」でのライブ

心躍る (カミン・ホーム・ベイビー) のスロディ・パーカッションを加えたレギュラー・グループを率いるフルート奏者、ハービー・マンのノリの良いプレイの魅力を満喫できる楽しいライヴ・アルバムである。ガッシュウィルのオペラ『ボギー・アンド・ベス』からの2曲でも、マンのバンドはグルーヴィーな魅力をいっぱいにもつくり出してゆく。フープ・チャートにもラン・クインして、ハービー・マンの気合と決意を下した記念碑的な名盤。

ジャズのみならずクラシックに精通し、静かなたたずまいで人気を誇ったMJQの音楽監督にして名ピアニストの代表作。端正で知的、洗練された演奏が楽しめる人気アルバム。

WPCR-29080 【ATLANTIC】

ジョン・ルイス・ピアノ

- ハーレクイン
- リトル・ガール・ブルー
- 悪人&美女
- D & E
- イット・ネヴァー・エンタード・マイ・マインド
- ワルム・ランド
- 二つの抒情作品・a)イロ b)コロロバイン

ジョン・ルイス (p)、ジム・ホール (g)、パリー・ガール・ブレイス (g)、パーシー・ヒース (b)、コニー・ケイ (ds)

【録音】1956年7月30日　1957年7月21日、8月24日　ニューヨーク

MJQを離れたジョン・ルイスの、ピアニストとしての一面にスポットが当てられている。デュオ・トリオによる演奏がめづらっていて、この曲でもルイスの端正なピアノ・タッチを耳にすることができる。“ディア・オールド・トル・ノックル・マン”のタイトルでも知られる (ワルム・ランド) は、ギターのガブリエリ・デ・サント・トモ、MJQ『ジョー・メディア』の母体になった (ハーレクイン) (二つの抒情作品) など、聴くべきポイントは多い。

キャンボールとマイルスにその稀有な才能を認められたザヴィナルが、ウェザー・リポート結成直前に発表した衝撃の名盤。豪華メンバーを集め、斬新なアイデアをここに凝縮。

WPCR-29081 【ATLANTIC】

ジョー・ザヴィナル『ザヴィナル』

- 名譽博士号
- イン・ア・サイレント・ウェイ
- ヒス・ラスト・ジャン・ニュー
- ダブル・イメージ
- アラ・イヴァル・イン・ニュー・オーケ

ジョー・ザヴィナル (p. el-p)、ハービー・ Hancock (p. el-p)、ジョー・ジ・テイ・ウィズ (fl)、ヒューバート・ロズ (fl)、ウディ・ジョウ (tp)、ジミー・オウエンス (tp)、アール・ターピントン (ss)、ウェイン・ジョーター (ss)、ミロスラフ・ヴイトク (b)、ワルター・ブレイカー (b)、ジョー・チャン・パーソン (perc)、ビリー・ハート (perc)、デヴィッド・フリー (perc)、ジャック・デグロム (perc)

【録音】1970年8月6、10、12日、10月28日

マイルス・デイヴィス・バンドでのキャリアを経て、ザヴィナルが創造していったナチュラを響きをもつ幻想的な世界、マイルスともブレた (イン・ア・サイレント・ウェイ) や (ダブル・イメージ)、ハービー・ Hancock に捧げられた (名譽博士号)、ザヴィナルのエクストラ・ミュージック・レーベルに、複数のパーカッションを加えたボリリズムをサウンドは、来たるべき“ウェザー・リポート”を確実に指向している。

これぞ真のフュージョン、南米コロンビア発祥のラテン音楽を題材に作り上げた、巨人ミンガス最後の大作にして、70年代ジャズの金字塔のひとつ。

WPCR-29083 【ATLANTIC】

チャールス・ミンガス『クンピア&ジャズ・フュージョン』

- クンピア&ジャズ・フュージョン
- “トド・モード”のテーマ

11チャールス・ミンガス (b. vo. arr. south american rhythm inst.)、ジャック・ウオラズ (tp. south american rhythm inst.)、リッキー・フォード (ts. south american rhythm inst.)、ボビー・シヅラー (cga. ts.)、マブ・リ・オズニス (fl. pic. ss. sb.)、テリ・ロー・アダーソン (b-b), c-b), ジョン・ジョルニス (bassoon)、ジミー・ネッサー (tr. b-b), ポプ・スロムス (d. ga.)、ダニー・ラッド (b), キンディ・エイ (cga)、ダ・エルト・コナササ (cga)、レイマン・テイグ (cga)、アフラ・ド・モリス (fl. pic.)、ジョー・ロウザー (ts) (south american rhythm inst.)、21チャールス・ミンガス (fl. arr.)、ジャック・ウオラズ (tp.)、ジョー・アダムス (ts. a-fl)、アフラ・ド・モリス (cga.)、アラス・オデルボ (oboe, english horn)、ロバート・ノール (b-cl)、バカル・パトリス (bassoon)、ティム・ビリー (tr.)、ダニー・ミンガン (p. org.)、ダニー・ラッド (c-md) 他

【録音】1977年3月10日　ニューヨーク/21:1976年3月31日、4月1日　イタリア、ローマ

「直立猿人」にも匹敵すべき70年代半ばのミンガスの大作アルバム。南米コロンビアの伝統音楽であるクンピアと、強い印象をもったミンガス・ミュージックとの鮮やかな融合。28分にも及ぶタイトル曲では、素材な木管楽器や混沌としたアンサンブル、そしてパーカッションの響きによって壮大な巻線巻が形づくられる。(トド・モード)のテーマは、イタリア映画のために書かれたミンガスのオリジナル。

革新的なアプローチで知られるティディ・チャールズとジャズ・ベースの巨人ベティ・フォードが中心となって結成された異色トリオによるデューク・エリントン作品集。

WPCR-29085 【JUBILEE】

ティディ・チャールズ・トリオ『スリー・フォー・デューク』

- メイ・ステム
- ドゥ・ナッシュン・ティル・ユー・ビ・フロム・ミー
- ソフィスティケイテッド・レディ
- リッド・ゲット・アラウンド・マツ・エニオ
- シヤーマン・ジャッフル
- ザ・ム・チ

ティディ・チャールズ (vib)、ホール・オーヴァートン (p)、オスカ・ペディフォド (b)

【録音】1957年5月29日　ニューヨーク

意欲的なヴァイブ奏者、ティディ・チャールズが、ピアノのオーヴァートン、ベースのベティ・フォードとの異色のトリオ編成で吹き込んだアルバム。タイトルが示すように、全編ティディ・エリントンのナンバーばかりがとりあげられてはいるものの、エリントン集といえるには完全にチャールズの音楽になっているのが興味深い。心地よいウイングを伴った室内楽的な演奏、シンパルに練られた響きに、チャールズの実力のみる思いがける作品である。

人気盤『踊り子』と対をなす、通称『お風呂』でひろく知られているベイチの代表作。ウエスト・コースト・ジャズの名手が参加、洗練されたビッグ・バンド・ジャズを聴かせている。

WPCR-29087 【WARNER BROS.】

マーティ・ベイチ『アイ・ゲット・ア・ブート・アウト・オブ・ユー』

- スイングしなげりや意味ないね
- ノー・モア
- ラヴ・フォー・セール
- モーニング
- コートにすみれを
- ホワイト・アム・アイ・ビ・ア・フォー
- コトン・ティル
- ワット・ム・ヴァレ
- 昔はよかったね

マーティ・ベイチ (p. arr.)、コンテ・カンドリ、ジャック・シェルト、アル・ボーン (tp.)、ボブ・エネツァー (tr. v.b.)、ジョー・ロウザー (b.tb.)、アート・ヴェイ (as.)、ビル・パーズン (ts)、ビル・フッド (bs.)、ウイリス・ドロウ (thr.)、ウルク・アム・フェルマン (vib.)、ラス・フリアマン (p.)、ジョー・モードラン (b.)、マルリス (ds)

【録音】1213: 1959年6月30日　ロンセルス/41517: 1959年7月2日　ロンセルス/6183: 1959年7月7日　ロンセルス

「ブロードウェイ・ビッツ」の1ヵ月後に吹き込まれた、「お風呂」のジャズックで有名なもう1枚のマーティ・ベイチのアルバム。ウエスト・コーストのトップ・プレイヤーが勢揃いしているとともに、やはりアート・ペーパーが好演。ファンキー・ジャズの名曲 (モーニング) でペーパーが口をとると、考えただけではつまらないではないか。(コートにすみれを) のしみじみとした表情をもつベッパのバラード・プレイも、じつに素晴らしい。

「直立猿人」の1年後に発表した、もうひとつの傑作。黒人意識の高まりと決意の念を示した「ハイチ人の戦闘の歌」が圧巻。チャーリー・パーカーへのオマージュ「ラヴァードの蘇生」も聴きもの。

WPCR-29082 【ATLANTIC】

チャールス・ミンガス『道化師』

- ハイチ人の戦闘の歌
- ブルー・シー
- ラヴァードの蘇生
- 道化師

チャールス・ミンガス (b.)、カーテス・ポーター (as. ts)、ジミー・ネッサー (tb.)、ウェイド・レギー (p.)、ダニー・リッパモン (ds, tambourine)、ジーン・シエファー (narration 4)

【録音】1957年2月13日、3月12日

ミンガスの代表作として知られる「直立猿人」から約1年後に吹き込まれた、もうひとつのミンガス・ジャズ・ワーク・ショップによる名盤。戦う黒人アーティストという面が色濃く出ている (ハイチ人の戦闘の歌) や、亡きパーカーに捧げられた (ラヴァードの蘇生)、詩とジャズの融合を試みた (道化師) など、いまなお興味深い演奏あり、あふれるほどの冒険心とともに、「怒れるペーンスト」ミンガスの本領が発揮された野心作である。

通人好みのうまさで知られる名手、ジョニー・ミスがロマンティックなスタンダードを中心に取り上げたインティメイトな雰囲気ただようジャズ・ギター名盤。

WPCR-29084 【ROOST】

ジョニー・ミス『イー・ジー・リスニング』

- ホエ・イン・アイ・フォー・イン・ラヴ
- 春の如く
- アイ・デッド・トゥ・ホワット・タム・イット・ワズ
- ブラック・イズ・ザ・カラー
- ライヴ・サム・ウイン・ラヴ
- ユー・ドント・ノウ・ホワット・ラヴ・イズ
- アイズ・ドント・ロマンティック
- アイ・リヴ・イン・ザ・コロン・フィールズ
- ア・フョギ・ディ
- スカーレット・リボン
- ビー・ブル・ワイルド・セイ・イウ・アー・イン・ラヴ
- ザ・ニクス・オブ・ユー

ジョニー・ミス (p.)、ジョー・ジャーマニ (b.)、チャーリー・マストロ・バロ (ds)

【録音】1958年11月19日　ニューヨーク

ロマンティックなアルバム・カヴァーも印象的なギタリスト、ジョニー・ミスのアルバム。「イー・ジー・リスニング」というタイトルが示すように、ミスの温かなギター・ハーモニーの響きは、美しい BGM としても最適なものがある。おなじみのスタンダード・ナンバーばかりを、しっとりと優雅に奏でてゆくジョニー・ミス。(ライヴ・サム・ウイン・ラヴ) や (ア・フョギー・ディ) などは、スウィングなトリオ演奏で聴かせてくれる。

名義はストレイ・ホーンとなっているが、実際にはデューク・エリントン楽団がシカゴのジャズクラブへの出演時の記録という、ルーレットに残された知られざるライヴ名盤。

WPCR-29086 【ROULETTE】

ピリース・ストレイ・ホーン『ライヴ!!!』

- 昔はよかったね
- ジープ・ブルース
- ミス・ター・ジャントル&ミスター・クール
- イン・ア・メロトーン
- オール・ワット・ユー・キャン・ソフティケイテッド・レディ
- パッシュン・フラー
- 明るい表情リデ

クラーク・テリー、キップ・アスターマン、ハロッド・ショー・ティ・ベイカー、アンドリュー・ファッツ・フォード (tb.)、レイナス (tp. vib. vo.)、ケン・ティン・ジャクソン、フリット・ウァーマン、ジョン・サンダーズ (tb.)、ジニー・ハズルトン (cl. ts.)、ラサレル・クロウプ (as. cl.)、ジョニー・ホラズ (as. ss.)、ボビー・コンラッド・ガス (ts.)、パーリー・カー (b. b-cl. cl.)、テュー・エリントン (p.)、ジニー・ベイ (b.)、ジミー・ジョンソン (ds)

【録音】1959年8月9日　シカゴ(ブルーノート)でのライブ

デューク・エリントンの片断といわれたピリース・ストレイ・ホーンを中心に、エリントン楽団の名プレイヤーたちが集まって演奏された、リラックスしたクラブでのライヴ録音。ジョニー・ホラズの前奏にスポットが当たられていて、ピロードのように滑らかなアート・サックスの魅力を活かすぶり味わうことができている。ホッジスのフィーチャー曲として有名なピリーのナンバー (パッシュン・フラー) が、とくに秀逸だ。

豊かなバリトン・ヴォイスで華やかな時代を築いたエクスタインの、リラックスしたライヴ名盤。

WPCR-29088 【ROULETTE】

ピリー・エクスタイン『ノー・カヴァー、ノー・ミニマム』

- ハヴ・ア・ソング・オン・ミー
- あの娘にないわ
- レディ・ラック
- ラッシュ・ライフ
- ワズ・アット・ア・ソング
- ヴァー・マンの月
- ディート・ア・イドゥ
- 春の如く
- ザッツ・フォー・ミー
- ユール・ネヴァー・ウオーク・アローン
- ミスティ

ピリー・エクスタイン (vo.)、チャーリー・ロウザー (b.)、パッキー・マーニ (tr.)、チャーリー・マズロー、パティ・バルサッ (sax.)、ホビー・タウカー (p. arr. cond.)、リッキー・ヘイス (fl.)、デヴィッド・フリー (perc)

【録音】1960年8月30日　ラスヴェガス「ニューフロンティア・ホテル」でのライブ

史上初のピラット・オーケストラを率いたあと、50年代からはよりポップな雰囲気もったエンターティナーとして成功をおさめたピリー・エクスタイン。ここでは豊かなバリトン・ヴォイスの魅力を生かして、スタンダード・ナンバーを中心にのびやかに歌ってみせる。いくつかの曲では、自身のバラッド・ソロもフィーチャー。素晴らしいジャズ・センスをもっていたエクスタインの実力を気軽に楽しめる一枚になっている。

